

主権者及び消費者の育成に係る指導の充実に関する実践研究
令和 6 年度実施報告（概要）

団体名： 羽生市教育委員会

1. 類型

【類型 I ①】主権者に必要な資質・能力の育成に係る小学校又は中学校における実践
(イ. 特別活動における指導)

2. 実践校について

実践校名	(はにゅうしりつひがしちゅうがっこう) 羽生市立東中学校	
全校児童・生徒数	実践研究の対象	
379人	(学年) 全校	(児童・生徒数) 人

3. 実践校における実践内容

(1) 概要

①学級会の恒常化をはじめとした“全教師による全校的な指導体制の確立”、②学校運営協議会委員と生徒会役員が参加する企画運営会議の創設による“全生徒が自治的に活動する機会の設定”、③学校行事の見直しを基盤とした“生徒が主体的に活動する場面の設定”を柱に、中学校現場における特別活動経営の在り方を探求していく。

(2) 2年目(令和6年度)の実践内容

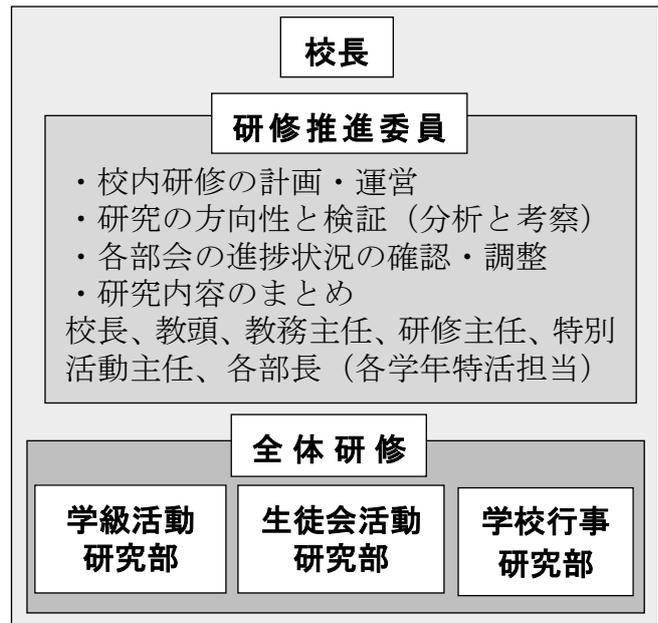
昨年度までの研究の積み重ねから恒常化しつつある学級活動(1)の“学級会”において、更なる話合いの内容の充実(質的向上)を図るとともに、議題の選定や提案理由の明確化に力を入れた。また、学級活動(2)(3)の系統的な実践についても年間指導計画を適宜見直しながら、学級活動(1)との授業展開の違いを踏まえつつ、効果的な指導の在り方について研修を積み重ねた。

月例で行う「生徒集会」では、昨年度までの経験をもとに、より一層生徒の発意を生かした生徒主体の時間となるようにした。また、一つ一つの学校行事に学級活動、生徒会活動を関連させ、意図的に「生徒が主体的に活動する機会」を設定した。

4. 実践校における実施体制

研究推進のための組織を右のとおりとした。1年次は校長主導（トップダウン）で進め、2年次は研修推進委員会（ミドルアップダウン）が主体となって研究を推進する。

また、全員で行う校内研修の場そのものを全体研修会と称し、その下に学級活動、生徒会活動、学校行事と、特別活動の活動・行事の3つのカテゴリーに分けた研究部会を置いた。



5. 各研究テーマについて、2年目の実践を踏まえた成果等

【類型Ⅰ①】主権者に必要な資質・能力の育成に係る小学校又は中学校における実践（イ. 特別活動における指導）

＜児童生徒が学校生活の充実と向上に主体的に参画することを促すため、どのような指導上の工夫が考えられるか。＞

“学級会”の恒常化、「生徒集会」の定例化が図られたことで、学級・学校のことを“自分事”として捉える生徒が増加した。生徒自身の実感としても、自分たちのことは自分たちで決めたいと捉えており、合意形成したものに価値を見いだしていることが分かった（生徒へのアンケートより）。社会参画意識を醸成するためには、学級全員が同じ土俵に立って話し合い、合意を積み重ねていく経験を積むことが必要不可欠であり、“学級会”の恒常化という視点をもって行った本研究では、各学級での活動を基盤として、生徒の主体的な活動の広がりとともに生徒会活動等のよりよい発展につながる成果が見られた。

また、「生徒集会」をはじめとした生徒主体の活動の充実により、集団活動の機会が恒常的に設定され、学校への「所属感」や「帰属意識」が高まった。はじめは教師の支援が必要な場面が多かったが、回を重ねるごとに生徒の参画意識も向上している。2年間の実践の中で、生徒会役員等の代替わりが行われたが、生き生きと活動する上級生の姿にあこがれ、生徒主体という伝統を引き継いで学校をよりよくしていきたいという思いをもつ生徒も増加した。

＜全ての教師が趣旨を理解し協力して関わることのできる、学校全体としての取組とするための校内体制構築に関して、どのような工夫が考えられるか。＞

特別活動の充実には、全教師による全校的な指導体制を確立することが欠かせない。そのため、学習指導要領の記述を基に、教職員の研修を積み重ねてきた。その中でも、“学級会”の授業の進め方を学ぶための模擬学級会の実施や、1単位時間の指導計画（学級活動指導案）の共通したひな形の作成を行ったことにより、全教職員が足並みを揃え

て実践に取り組めるようになった。特に、経験の少ない教員においても、ある程度の水準の授業を展開することができるようになったことも成果として挙げられる。今年度は、4月に特別活動主任による学級活動の公開授業を実施し、異動のあった教職員を含め指導法の確認をする機会を設けた。また、年度当初の保護者参観時には、全学級において、学級目標の設定に関する学級活動の授業を実施した。これらは年間指導計画に位置付け、継続して行っていけるようにした。さらに、これまで行った学級活動の議題や提案理由等をデータベース化し、教員がいつでも参照できるようにした。これらの取組みにより、教職員が同一步調で育てたい生徒像のイメージを共有しながら指導を行うことができるようになった。

主権者及び消費者の育成に係る指導の充実に関する実践研究
令和6年度実施報告（実践校における実践内容の詳細）

団体名： 羽生市教育委員会

1. 類型

【類型 I ①】主権者に必要な資質・能力の育成に係る小学校又は中学校における実践
（イ. 特別活動における指導）

2. 実践校名

羽生市立東中学校

3. 実践校における令和6年度の実践内容

（1）学級活動（1） 議題「合唱コンクールを成功させよう！」 第3学年

（ア 学級や学校における生活上の諸課題の解決）

<概要>

学級の課題に対し、合唱コンクールの取組を通して、学級全員で共通の課題意識をもって解決していきたいという願いから提案された議題である。話し合う内容を焦点化（①クラスの目標、②それを達成するための取組）し、日常生活をイメージしながら理由や根拠をよりどころとして話し合えるようにした。安易に多数決に頼らず、一人一人の意見や考えを認め合いながら、より現実的・建設的な意見交換を行い、合意形成へとつなげることができた。



決まった内容としては、クラスの目標は「一致団結、歌にねがいをのせて」となった。その目標を達成させるための取組として、練習日の設定について他の活動のある生徒にも配慮した意見が出された上で「月・水・金曜日の昼休みに練習する」、また、互いにアドバイスし共通の認識をもって練習を進めたほうがクラスがまとまるという意見から「毎練習後に振り返りの時間をとる」「毎回一人ずつ感想発表し、本番までに全員が言い終えるよう30回分練習する」「本番を意識して声を掛け合えるようカウントダウンカレンダーを作成する」が決まった。

事後の活動では、合意形成したことに基づき、多様な他者と協力しながら、人間関係や日常生活の改善を図ろうと行動する生徒の姿が見られた。学級会の実践を重ねていくことで、生徒一人一人が合意形成することの大切さを実感し、自らの学級をよりよくしていこうとする自主的・実践的な態度の育成につながっている。

<指導上の工夫>

- 学校生活の充実と向上に参画することを促す取組
 - ・授業形態はコの字型とし、生徒が互いの顔を見合いながら話し合えるようにした。
 - ・司会進行は輪番制とし、学級全員が経験できるようにした。
 - ・事前に合唱コンクールに関するアンケートを行い、提案理由の紹介の際に示すことで学級全員の参画意識を高められるようにした。
- 他教科等との連携：音楽科

(2) その他の取組について

○生徒総会・生徒集会

学級会の授業形態であるコの字型を学校全体に広げ、実施した。本部役員が司会・進行を行い、各専門委員会からの発表・啓発等も行った。部活動壮行会では、各部長からの目標発表、本部役員からのエール、生徒会歌の合唱、全校での円陣を行った。



○生徒会本部役員選挙

羽生市選挙管理委員会から実際の選挙で使用する記載台、投票箱を借り、有権者として近い将来行うことになる実際の選挙と同様の形で実施した。



○各種学校行事

体育祭では、予行練習の際に実行委員となる体育委員の一人一人が、自分の言葉で体育祭に対する思いを発表する場面を設定し、自分たちで作り上げる学校行事と思えるよう進めた。

旅行・集団宿泊的行事では、第1学年において、人間関係づくりによる不登校の未然防止といった観点から、校外学習の時期を年度当初に変更して実施した。また、スキー林間や修学旅行といった泊を伴う活動について、一部のきまりや活動等に生徒の声を取り入れるために集団討議を行い、主体的な活動が助長されるようにした。

職場体験活動では、地域の37の事業所に協力いただき、2日間にわたって実施した。



(3) 成果と課題

埼玉県学力・学習状況調査（質問紙調査）の自己有用感に関する問い「自分には、よいところがあると思いますか」について、「あると思う」が令和5年度の34.5%から、令和6年度には41.6%と上昇した。さらに、「課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりすることで、自分の考えをしっかりと持てるようになったか」という問いに対して、「よくあった」が令和5年度の35.3%から、令和6年度には45.1%と上昇した。また、

学級をよりよいものにしようとしたり、生徒会活動や学校行事においても自ら進んで活動したりする生徒が増え、自分の言葉で思いを語ったり、進んでみんなのために働く生徒が増えたりするなど、生徒の姿に変化がみられた。これらの取組をいかに継承していくかということが課題である。

Ⅲ 研究の成果 **学級活動(1) “学級会”の実践から**

- ・ 自分も他者も大切にし、認め合う
- ・ 自分の役割を自覚し、他者と協力して、目標を達成しようとする
- ・ 自分達のことは自分達で決めたい



合意形成に価値を見いだしている

Ⅲ 研究の成果 **生徒の活動の姿より**

このような生徒が増えました

- ・ 学級をよりよいものにしようとする生徒
- ・ 生徒会活動や学校行事で自ら進んで活動する生徒
- ・ 進んでみんなのために働く生徒
- ・ 自分の言葉で思いを語る生徒



学級活動の経験が、生徒会活動・学校行事に好影響